

あなたのコアコンピタンスを

新ビジネスへ

内閣府地域中核大学イノベーション創出環境強化事業

新事業創出

のための 人材育成シリーズセミナー

[開催] 全5回(10講演)

[講師] 兵庫県立大学教員
コンサルタント企業
ものづくり企業

[費用] 参加無料

[期間] 令和6年10月～令和7年2月

[受講] 対面(先着20名) or Web

[場所] 姫路じばさんびる

参加
受講
対象

兵庫県内機関在籍者

- ・企業、団体
- ・教育・研究機関
- ・学生の皆さん

漠然でも**起業**に関心のある**あなた**
具体的に**起業**を目指している**あなた**
何とか**企業変革**を図りたい**あなた**
次につながる**新規事業**のヒントが欲しい**あなた**

セミナーの内容や参加受講申し込み方法は裏面(次頁)参照

〔セミナー開催の狙い〕

- ・産官学金が連携し、播磨地域を中心に兵庫県全域の産業を活性化することを目的とし、スタートアップや企業の新事業の創出を担う人材を育成する。
- ・志のある参加者の皆様の一步前進の後押しと講師陣との関係構築を含めた支援の契機とする。

〔取り組みの背景〕

兵庫県及び播磨圏の産業について分析した多種多様な課題の中から、今後の主要産業発展に向けて重要な技術的項目を抽出。抽出した以下の課題項目に対応可能な人材育成をめざす。

- ・グローバル競争激化(特に中国、インド、アジア新興国)への対応力不足。
- ・総じて、旧テックに依存しており、最先端技術が使いこなせていない。
- ・必須で重要な情報通信産業、AI、IoTなどの産業が育っていない。

【分析事例】日本のITの強みと弱み

日本ITの強み		日本ITの弱み	
	順位		順位
PISA数学の得点	5	国際経験	63
高等教育の教師と生徒の比率	1	デジタルスキル	62
ロボット教育、ロボット研究開発	4	移民法(の整備)	61
ワイヤレスブロードバンド	2	機会と脅威	63
電子行政参加	4	企業の機敏さ	63
世界へのロボット供給	2	ビッグデータ解析の利用	63
ソフトウェア権利保護	2		

(出典:ITジャーナリスト牧野武文のデジタル競争力ランキングに見る日本のITの強みと弱み)

スイス国際経営開発研究所(IMD)は世界64か国のIT力を比較し報告している。この報告を基に日本のITの強みと弱みを、それぞれ各項目の順位が

上位5位に入っているものを強み

下位5位に入っているものを弱み

として抜き出したのが左表である。

特に、「デジタルスキル」や「ビッグデータの活用」などの項目で著しく低い評価を受けている。

また、「上級管理職の国際経験」や「企業の俊敏性」なども世界的に見て非常に低い順位にあり、日本のデジタル競争力の低さが浮き彫りになっている。

[主催] 兵庫県立大学



社会価値創造機構

姫路市南駅前町123 じばさんびる3階

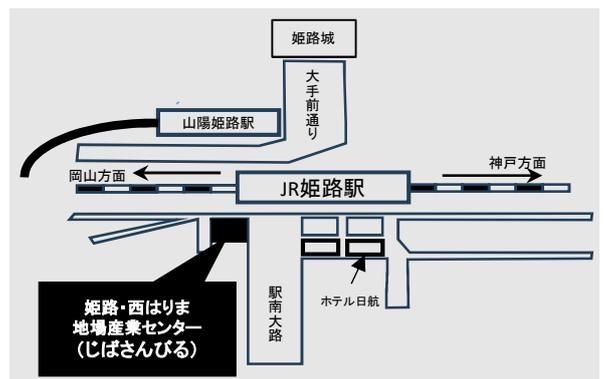
[共催] はりま新産業創出エコシステム

[問合せ先] 社会価値創造機構

TEL:079-283-4560

FAX:079-283-4561

email:sangaku@hq.u-hyogo.ac.jp



新事業創出のための 人材育成シリーズセミナー

参加申込

全5回(10講演) 令和6年10月～令和7年2月

ハイブリッド開催(対面(先着20名)+Web)

対面会場: 兵庫県立大学
社会価値創造機構セミナールーム
(姫路市南駅前町123 じばさんびる3階)

〔開催日予定〕※変更となる場合があります

13:30～ 開場(Web 開始)
13:55～14:00 主催者開会挨拶
14:00～15:30 セミナー講演1(含質疑)
15:30～15:40 休憩
15:40～17:10 セミナー講演2(含質疑)
17:10～17:15 主催者閉会挨拶

〔参加申込方法〕

※全10講演の受講をお勧めします。部分受講も可能です。
※毎回募集します。変更も可能です。

＜方法1＞Webフォームからの申し込み
右のURLあるいはQRコードにアクセス

＜方法2＞電子メールでの申し込み
下記の〔受講者情報〕に必要事項を記載、スケジュール欄右端の
〔申込記入欄〕に〇印した用紙データを添付し事務局宛に送信
事務局メールアドレス:sangaku@hq.u-hyogo.ac.jp

WebフォームURL

<https://forms.gle/AL69n4YgzfwmhUu49>

WebフォームQRコード



〔申し込み締め切り〕

※開催日前週の月曜日
済10月開催分: 9月23日(月)
・11月開催分: 11月18日(月)
・12月開催分: 12月 9日(月)
・1月開催分: 1月20日(月)
・2月開催分: 2月17日(月)

どちらかの欄で
希望に〇印

〔受講者情報〕

氏名		電話番号	
メールアドレス			
会社/大学名等			
所属・役職等			

〔開催スケジュール〕※予定及び内容を変更する場合があります

〔申込記入欄〕

開催日	講演 No.	講演内容	個別 申込	一括 申込
令和6年 10/1 (火)	1	「これからの経営戦略とマネジメント」 顯谷(あらや)敏也 特任教授(兵庫県立大学大学院社会科学部)	対面	対面 Web
	2	「DXと知識経営:”質創造“マネジメント」 貝瀬 徹 教授(兵庫県立大学大学院社会科学部)	Web	
11/26 (火)	3	「生成AIの可能性とその事業性」 森本雅和 准教授(兵庫県立大学大学院工学部)	対面	
	4	「大規模シミュレーションとその事業性」 永野康行 教授(兵庫県立大学大学院減災復興政策部)	Web	
12/17 (火)	5	「デジタル技術を活用した、自社工場の現場改善事例の紹介」 株式会社椿本チエイン DX・ITセンター 深田 明 DX戦略担当、野田佳之 副参事、岩本裕樹 主事	対面	
	6	「DXの成功事例、失敗事例」 笹嶋宗彦 教授(兵庫県立大学大学院情報科学部)	Web	
令和7年 1/28 (火)	7	「スタートアップ起業家が知っておきたい知的財産マネジメント」 板谷国際特許事務所 板谷真之 所長 弁理士	対面	
	8	「ビジネスモデル構築・ブランド戦略」 株式会社SASI 近藤清人 代表取締役	Web	
2/25 (火)	9	「DXの導入と支援について」 中山真吾 非常勤講師 (兵庫県立大学大学院社会科学部) MBA・中小企業診断士	対面	
	10	「事業創造におけるファイナンス」 櫻井秀樹 桜井アドバイザー 代表 中小企業診断士	Web	

新事業創出 のための 人材育成シリーズセミナー

[主催] 兵庫県立大学
社会価値創造機構
姫路市南駅前町123 じばさんびる3階



[共催] はりま新産業創出エコシステム

[問合せ先] 社会価値創造機構
TEL:079-283-4560
FAX:079-283-4561
email:sangaku@hq.u-

hyogo.ac.jp

P1

講演 予定日	講演概要 ※予定及び内容を変更する場合があります
令和6年 10月1日 (火)	<p>No.1 「これからの経営戦略とマネジメント」 顯谷(あらや)敏也 特任教授(兵庫県立大学大学院社会科学研究所) 済</p> <p>世界的なパンデミックに端を発する市場の停滞やDX化の急激な進展、ボーダーレスなグローバル化、持続的な社会への要請など、私たちを取り巻くビジネス環境は急激に変化しており、社会や消費者のニーズも目まぐるしく移り変わっています。このような不確実な環境では、目指す方向を定め、組織を一枚岩にするためのストーリーである経営戦略が極めて重要になってきます。さらに戦略に沿った目標を具体的な行動指針に落とし込み、結果に繋げる組織マネジメントも必要になります。本講演では、自社の保有資源を最大限に活用し成果に繋げるための、経営戦略策定の目の付けどころ(フレームワーク)を学び、それらの活用方法を事例に基づいて考えていきます。</p>
	<p>No.2 「DXと知識経営：“質創造”マネジメント」 貝瀬 徹 教授(兵庫県立大学大学院社会科学研究所) 済</p> <p>製造およびサービスでの品質の重要性については、既に多くの方々が認識しているのが現状です。しかし、顧客が高く評価する品質をつくり込むためには、企業側の組織が担う“質創造”のマネジメントが必要になります。本講演では、品質経営と知識経営の枠組みに基づいて質創造マネジメントの構成と概要を説明し、さらにDXによる量的および質的データの推論と学習との関係を事例により理解を深めます。具体的には、機能実現による質の分類と組織による質の創出、さらに組織知識の集約と学習による質の具現化、および顧客との関係と信頼性といったことを述べ、さらにデータに基づいた質の製品デザインへのつくり込み、およびベイズ推論と機械学習の応用についての事例を説明します。</p>
11月26日 (火)	<p>No.3 「生成AIの可能性とその事業性」 森本雅和 准教授(兵庫県立大学大学院工学研究所)</p> <p>生成AIは、近年の技術革新により多岐にわたる分野で応用が進んでいます。本講演では、生成AIの基礎から応用までを解説します。まず、自然言語処理や画像生成における生成AIのアルゴリズム、そしてこれらが産業界にどのように応用され、新たな事業機会を創出しているのかについて詳しく述べます。事例紹介として、生成AIのビジネスでの活用事例、効率化された業務プロセス、生成AIを活用した新素材開発、さらには新たなビジネスモデルの創出例を取り上げ、実践的な理解を深めます。さらに、生成AIのもつリスクとその対策、生成AIの利用ガイドラインの制定指針についても解説します。本講演を通じて、参加者が生成AIの持つ可能性とリスクを理解し、自身の研究や事業に応用できる知識と視点を得ることを目指します。</p>
	<p>No.4 「大規模シミュレーションとその事業性」 永野康行 教授(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究所)</p> <p>建築物は一品生産で、大量生産品とは異なるプロセスで意志決定され、出来上がっていきます。このとき設計者はどのように意志決定をしているのでしょうか。地震時の建物安全性検証(地震応答解析)や地盤の応答解析、最適設計の実建築構造物への適用では、大規模シミュレーションが欠かせません。コンピュータ支援を利用した建築構造物の新しい設計法についての研究や、スーパーコンピュータを利用した都市規模の建物被害シミュレーションについての研究成果の一部を紹介します。民間企業の実務設計の経験と大学における教育研究の実践経験のある私から、研究成果をいかに事業に結びつけていくのか、分かりやすく説明したいと思っています。</p>

講演 予定日	講演概要 ※予定及び内容を変更する場合があります
12月17日 (火)	<p>No.5 「デジタル技術を活用した、自社工場の現場改善事例の紹介」 株式会社橋本チエイン DX・ITセンター 深田 明 DX戦略担当、野田佳之 副参事、岩本裕樹 主事</p> <p>橋本チエイン京田辺工場では産業用途を中心に約2万種のチェーンを生産しています。会社としては今年で創業107年を迎えましたが、私たちの事業を取り巻く環境は常に変化しており、その変化に対応するべく、生産工場では日々改善を行っています。近年では現場レベルでの改善活動でも、「できることから」のデジタルツール活用を始めています。デジタルツールの導入自体が目的にならないよう気を付けなければなりません、うまく使えば非常に有用なものとなります。</p> <p>今回は、工場におけるデジタル技術を用いた改善活動の一端を事例として紹介します。また、工場での取り組み事例を糧として、同じくモノづくりを行うお客様を支援させていただき組織も立ち上げました。事業としては駆け出しとなりますが、そのあたりも少し紹介します。</p>
	<p>No.6 「DXの成功事例、失敗事例」 笹嶋宗彦 教授(兵庫県立大学大学院情報科学研究科)</p> <p>DXへの取り組みは待ったなしの状況である。国も大学など高度教育機関においてDXを支えるAI人材の育成を行う方向に舵を切っており、DXに取り組む企業の株式をDX銘柄として推奨するなど、DX普及への後押しをはじめている。</p> <p>DXは、ビジネスプロセスの一部をデジタル化したり、AI技術を導入したりすることが最終の目標ではなく、本質的な課題を、全社一丸となって解決することが本当の目標である。そのため、簡単に見えるデジタル化や業務改善が思わぬところで失敗することもあれば、技術的には難しいデジタル化が大きな収益につながることもある。</p> <p>本講演では、DXの導入、運用、それぞれの過程で、成功した事例、失敗した事例などを、事例や体験と共に紹介する。</p>
令和7年 1月28日 (火)	<p>No.7 「スタートアップ起業家が知っておきたい知的財産マネジメント」 板谷国際特許事務所 板谷真之 所長 弁理士</p> <p>スタートアップにおいては、優れた技術やアイデアがあっても、知的財産に関する知識が十分でなければ、事業展開がうまくいかない場合があります。そのため、スタートアップ起業家は、自社の事業戦略を構築する上で、知的財産(知財)戦略を検討することが不可欠になっています。そして、知財戦略の検討にあたっては、自社が持つ技術やアイデアを明確化し、客観的に評価した上で、それらが知的財産権によって、どのように「保護」され得るか、「活用」することができるか、そして、どのような「リスク」があるかを検討する必要があります。</p> <p>本講演では、スタートアップ起業家が、知的財産の「保護」「活用」「リスク」に関するマネジメントを行う上で知っておきたい知的財産に関して、基礎的な知識から具体的な応用事例までを分かり易く解説致します。</p>
	<p>No.8 「ビジネスモデル構築・ブランド戦略」 株式会社SASI 近藤清人 代表取締役</p> <p>現代の経営とはデザインのプロセスと似ている部分があります。演繹的に事実を積み重ねていくだけではなく、帰納的に自らが実現したい社会像を他者に示すことによることから始まります。</p> <p>自らの実現したいビジョンを示しながら、関係者や顧客、社員という人、商品やサービスというモノ、投資や利益というカネをどのように循環させるかというビジネスモデルを帰納的(バックキャスト)に構築していくことが求められます。さらにはそれを動かし続け、自ら約束している未来に対しての行動こそがブランドを構築していく様を紐解いていきます。</p> <p>その成功の鍵は外的環境を分析していくよりも、内的環境である価値の根っこであるアイデンティティを見つめ、自身に問いを立てることから始まります。その意味においても現在の経営とはデザインのプロセスと似ていると言えるでしょう。まずは自身に問いを立てて、予想不可能な社会に「ほしい未来」を指し示してみましよう。</p>
2月25日 (火)	<p>No.9 「DXの導入と支援について」 中山真吾 非常勤講師(兵庫県立大学大学院社会科学研究所) MBA・中小企業診断士</p> <p>あらゆる要素がデジタル化されていく Society5.0 に向けて、ビジネス モデルを抜本的に変革(DX)し、新たな成長を実現する企業が現れてきている。一方、グローバルな競争の中で、競合する新たなビジネスモデルにより既存ビジネスが破壊される事例(デジタルディスラプション)が現れてきている。</p> <p>こうした時代変化の中で、持続的な企業価値の向上を図っていくためには、企業全体の組織構造や文化の改革、中長期的な投資を行う観点から、経営者の関与が不可欠なものである。DXは、デジタルを活用(デジタル化を推進)するだけではなく、組織を変革することが重要である。組織の変革には、組織全体での取り組み、個々人のマインドの変化を促す必要がある。</p> <p>今回の講演では、私自身がDXの伴走支援を多数実施してきた経験を踏まえて、「DX成功のポイント」と「DX実現に向けた支援」について紹介する。</p>
	<p>No.10 「事業創造におけるファイナンス」 櫻井秀樹 櫻井アドバイザー 代表 中小企業診断士</p> <p>社会イノベーションを推進する主体は、ベンチャー企業/スタートアップ企業であり、企業の新規事業部門による事業創造であるといわれている。然しながら、現状ではまだその実現は限定的となっており、実現に向けてはファイナンスすなわち資金調達最大の課題の一つである。</p> <p>この講演では、事業創造のため、資金調達方法や、ベンチャーキャピタルとはなにか、ベンチャーキャピタルの活用術を学ぶほか、資金調達の際に必要な、事業計画、中期計画の策定方法とそのポイント、そして昨今、日本産業でも増えつつある、M&Aや事業承継による事業創出などのプロセスについても触れていく。</p>